広報 中部の森林（もり）

私の森語り「山岳と共生する人の営みと建築」
京都府立大学大学院 准教授　奥矢 恵

写真：「ウサギのあしあと」（北信署管内）

特集
- 令和４年度中部森林技術交流発表会

各地からの便り
- 素材生産事業現地検討会を開催
- 民有林の先進事例「フォレンタ」現地見学会を開催　ほか

シリーズ
- 森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業、国有林モニターのご紹介

国民の森林・国有林
林野庁中部森林管理局
2023/No.227

中部森林技術交流発表会を開催

【技術普及課】

一月二十三日と二十四日の二日間、令和四年度中部森林技術交流発表会をWEB開催しました。

今年度は森林整備センター、岐阜県、信州大学、岐阜大学、筑波大学等からも参加していただき、合計二十課題が発表され、国有林の部では、十課題から以下の三課題が優秀賞に選定されました。

発表会の様子は、今月二十二日まで動画配信しています。

審査委員の皆様と局幹部
スクリーンには国有林の部発表者

新しい林業への挑戦
―クラッシャー地拵えの検証―

【北信森林管理署】

枝条や根株等を粉砕・チップ化し、地面の凹凸をなくすクラッシャー地拵えを実施。功程を比較するとバケット、クラッシャー、グラップルの順に良く、堆積したチップによる植栽木の活着への影響はなく、厚さ十五センチメートル以上のチップでは下草抑制効果も期待できる検証結果を得た。今後、自動下刈機の導入により、トータル的な造林コストの縮減が期待される。

使用したブラッシュクラッシャー

帯状伐採による育成複層林施業について
～伐採幅と植栽木成長の関係～

【木曽森林管理署】

七十四年生ヒノキ人工林を二〇、三〇、四〇メートル幅で帯状皆伐・植栽した箇所における、植栽木の成長調査を実施した。初期成長には伐採幅の影響はなく、植栽十六年目の調査では、光環境の影響が懸念された二〇メートル幅での成長が良好という結果となり、今後の育成複層林施業での伐採幅決定の参考となるデータが得られた。

調査地（左から30m、20m、40m幅の伐採帯）

森林経営管理制度を踏まえた市町村支援について
～岐阜署における民有林支援の取組～

【岐阜森林管理署・下呂市】

森林経営管理制度が導入され、市町村による一層の森林整備への取組が期待されている中、地元市町村がこの制度を有効活用できるよう、国有林の事業箇所での実地研修をはじめ、県や市町村職員と合同でのニホンジカ食害防除対策検討会の開催、その他各種研修会を通して、民有林への技術普及や連携強化の取組の報告がされた。

民国共催でのニホンジカ食害防除対策検討会

国有林の部（十課題）

その他、幅広い分野の取組の発表がありました。

「森林技術部門」では、緩効性肥料添加コンテナ苗と下刈り省略による初期保育削減の取組、ブランド材販売約十年間の実績報告、全天球カメラを活用した新たな林分調査の効率化や、治山分野からは、平成七年からの長期的な崩壊地復旧の取組の報告がありました。

「森林保全部門」では、飛騨・高原川流域のクマ剥ぎ被害の現状と、それを踏まえた施業の考察、造林地へのブロックディフェンス設置によるニホンジカ捕獲について中間報告がありました。

「森林ふれあい部門」では、立山連峰での五十年にわたる高山植物等保護パトロールの歩みについての報告がありました。

民有林・学生の部の発表は、次のとおりです。

民有林・学生の部（十課題）

「ヘアトラップを用いた木曽地域のツキノワグマの集団遺伝学的構造」（筑波大学大学院）

長野県木曽地域のツキノワグマの遺伝的多様性および構造についてヘアトラップ解析の有効性が報告されました。

「山野草の保全遺伝学的研究…カンアオイ属ウスバサイシン節での事例」（筑波大学大学院）

生物多様性の維持や観光資源などの価値を持つ山野草等の保全についてウスバサイシン節を例に考察されました。

「長野県木曽郡の森林経営管理制度運営における広域連合の役割」（筑波大学大学院）

森林経営管理制度の運用に、全国で唯一「広域連合」を活用する木曽郡の六町村へ聞き取り調査を行い、その連携構造と役割が報告されました。

「モバイル型レーザーを用いた幹曲線式の作成」（信州大学）

モバイル型レーザー計測により作成した幹曲線式から、任意の高さの幹直径を推定し、実測値との精度検証がなされました。

「水源林造成事業地におけるくくりわなによる誘引捕獲の結果について」（森林整備センター）

三重県及び愛知県の一部の水源林造成事業地において、くくりわなによる誘引捕獲を試行的に実施し、捕獲事業地では出現頭数が確実に減少していることが報告されました。

「松本市四賀地区、奈川地区における地域住民による野生動物と獣害対策に対する意識」（岐阜大学）

アンケート調査により、地区ごとに地域住民の野生動物に対する認識や獣害対策に対する意識の差異が明らかになりました。

「中部森林管理局と取り組む人材育成を見据えた山岳森林教育」（筑波大学山岳科学センター）

中部局、東信署等と協働で実施した山岳科学フィールド実習の報告と、林業分野への人材育成を見据えた取組が紹介されました。

「晩秋に植栽したヒノキ実生コンテナ苗の活着と状態」（岐阜県森林研究所）

少雪寒冷地域において晩秋にヒノキ実生コンテナ苗を植栽し、苗の状態と活着率についての検証がなされました。

「一年生ヒノキ・コンテナ苗の植栽初期の成長に及ぼす元肥の影響」（岐阜県森林研究所）

元肥条件の異なる一年生ヒノキ・コンテナ苗と裸苗の植栽一年後の比較検証がなされました。

「携帯電話の通信圏外における通信手段確保の取組」（森林文化アカデミー・ＪＶＣケンウッド）

携帯圏外の通信手段として、トランシーバーの電波と既存のアプリを活用したシステム導入の取組が報告されました。

今年度も、皆様のご協力により二日間の森林技術交流発表会を無事開催することができました。

素材生産事業　現地検討会を開催

【愛知森林管理事務所】

十二月二日、北設楽郡設楽町の段戸国有林において、民有林関係者や素材生産請負事業体を対象に、「林地状況に応じた効率的な搬出方法」をテーマとした現地検討会を開催しました。

今回の検討会は、近年、林地保全に配慮した木材の搬出方法が注目される中、林地状況に応じて車両系集材及び架線系集材を使い分けて搬出している事業地で行いました。

現在、当国有林での主な搬出方法は車両系集材となっています。そのため、当該事業地において架線集材を選択した理由、また、架線集材を行う場合の安全対策等を請負事業体から実演を交えて説明があり、参加者からは、「架線集材を初めて見た」「当該架線での集材可能なエリアは？」といった感想や質問などがありました。

双方の集材方法には、メリット、デメリットはありますが、林地の状況をよく見て使い分け、安全作業の観点、林地保全にも配慮して作業することにより、当該事業地では結果的に生産性の向上につながっていることがわかりました。

今後とも民有林と連携し、国有林のフィールドを生かした検討会等を開催し、市町村、事業体等と知恵を出し合い取り組んでいきたいと考えています。

集材方法について検討する参加者

名古屋学院大学の学生への講義

【名古屋事務所】

十二月六日、名古屋事務所に隣接する名古屋学院大学の現代社会学部の学生が「熱田白鳥の歴史館」へ来館し、白鳥貯木場が木材産業発祥の地として名古屋の木材流通の中心地であった歴史や木曽式伐木運材図会で記録された時代から現代までの伐出の沿革などについて、映像や図絵の解説を交えた約一時間の講義を聴講しました。

講師を務めた技術普及課の井上係長は、本誌の「今は昔の林業」の連載を担当していますが、これまでも大学の講義や小学校の森林教室、地域の講座の講師などをしており、今回の講義においても木曽の林業や木材産業などの歴史を興味深く学ぶことができたと好評でした。

当事務所では、地域の方々や当事務所の「熱田白鳥の歴史館」へ来館を予定されている皆様方から講義の依頼などがある場合は、できる限りお受けし、職員による講義を行いながら、森林・林業・木材産業へのご理解をいただけるよう取り組んでいますので、いつでもお問い合わせください。

熱田白鳥の歴史館で学ぶ21名の大学生

民有林の先進事例「フォレンタ」現地見学会を開催

【岐阜森林管理署】

十二月十四日、岐阜県加茂郡東白川村の株式会社山共にて、森林所有者の立場から考えた日本初の森林レンタルサービス「フォレンタ」の現地見学会を行いました。

昨年十二月、同社の田口房国社長に広報「中部の森林」№225の「私の森語り」にて、フォレンタの取組をご紹介いただいたことをきっかけに、署内の若手職員を中心に現地を見学させていただきながら、田口社長とフォレンタ担当の安江さんから取組状況などを教えていただきました。

田口社長より説明を受ける当署職員

区画の設定や利用時のルールなどについて質問

フォレンタは、木材生産を行う森林内に設定した区画をキャンプ等の利用希望者へ一年単位で貸し出すサービスで、当初、社有林十七区画で募集を開始し、都市部などから約二十五倍の申し込みがあったとのことで、現在は近隣の個人の森林や東白川村の村有林を加えてサービスを行うとともに、全国的にフランチャイズによる事業展開をされています。

従来の木材生産林は、間伐や主伐期になるまで収入がありませんが、木材の成長を待つ期間に森林空間利用の価値を見出すことで、中間収入を得ることができています。また、利用者が空間を自由にデザインできるよう経営側による整備は、駐車場、トイレ、作業道くらいで、割り当てられた区画内では、切り捨て間伐で発生した丸太を利用した足場、笹の刈払い、小屋や遊具の設置など、利用者が自ら整備されている様子を見ることができました。

更に、フォレンタの利用者同士がお互いを尊重し合いながら、それぞれ工夫して森林での時間を過ごされ、多くの利用者が年間契約を更新されていることを知り、感性だけでなく、人間性も磨かれる場所であると感じました。

今回の現地見学会では、木材生産と森林空間利用を両立した先進的な取組にふれ、森林の持つ可能性を見つめ直す良い機会となりました。

今後とも地域の民有林や関係機関等との情報交換や連携を行いながら、人々の役に立つ森林づくりに取り組んでまいります。

利用者による枝条（薪材）の集積の様子

利用者による林内整備の様子

岐阜県林業・木材製造業 労働災害撲滅推進協議会の設立

【岐阜森林管理署】

十二月二十二日、岐阜市の岐阜県図書館において、県主催による「岐阜県林業・木材製造業労働災害撲滅推進協議会」が開催されました。

この協議会は、労働災害の防止・撲滅を目的として、林業・木材製造業（以下「林材業」）の労働安全対策に取り組む行政機関、林材業関係団体、林材業事業体により構成する官民一体となった協議会を新たに設立するために開催され、関係者約八十名が出席しました。

岐阜県林政部長による主催者あいさつ

協議会では、主催者である岐阜県の高井林政部長のあいさつに続いて、事務局である岐阜県から協議会設立の趣旨について説明が行われ、協議会規約と活動計画が承認されて正式に協議会が発足し、会長には岐阜県林政部長が就任しました。

この協議会の会員は百二十三名であり、岐阜労働局労働基準部健康安全課及び岐阜県内の三つの森林管理署（岐阜・飛騨・東濃）が、アドバイザーとして参画しています。

林業・木材産業分野の労働災害の発生頻度は他業種に比べて極めて高く、また、令和三年度の岐阜県における死傷災害発生件数は、林業が四十三件（全国で八番目）、木材製造業が五十五件（全国で二番目）と厳しい状況になっています。

この協議会の設立を契機として、官民一体となった労働災害の防止・撲滅に向け、森林管理署も協議会員と連携・協力して、アドバイザーとしての役割をしっかり果たしていきたいと考えています。

森林総合監理士等 連携会議を開催

【技術普及課】

一月十日、中部局管内の民有林・国有林の森林総合監理士等を対象に、資質の向上や情報共有を目的とした森林総合監理士等連携会議をWEB方式により開催しました。

今年度は、管内各県から、今までで最多の七十六名の林務担当者に出席いただき、国有林職員を合わせ、百名を超える会議となりました。

会議ではまず、林材ライターの赤堀楠雄氏より、「森林総合監理士（フォレスター）に期待すること～答えは山にある～」というテーマで、森林技術者として求められるものは何か、現場ごとの最適解を追求することや地域の声に耳を傾けることの大切さなど、実例を挙げてご講義いただきました。

続いて、各県及び当局から、それぞれが今、力を入れて取り組んでいる「林業施策等に係る取組事例」の発表を行い、施策の成果や課題について情報を共有し、赤堀講師から各発表に対するコメントと聴き手が内容に期待感を寄せるような発表タイトルにするテクニックなどをご助言いただきました。

本局でのWEB会議の様子

今回の会議を終えて、各県の担当者から、「大変勉強になった」、「今後も継続して開催してもらいたい」などの声が寄せられました。

「新しい林業」への取組にあたっては、民国の森林総合監理士等による連携が肝要であることから、国有林としても職員の森林総合監理士資格の取得に努めるとともに、現地検討会等を通じ、民有林担当者の皆様と現場レベルでの積極的な交流を推進していきたいと考えています。

シリーズ

森林官からの便り

国有林の現場の最前線で、働く森林官の仕事や、管轄する地域の特色などを紹介します。

【南木曽支署　阿寺森林事務所】
森林官　片桐 義行

エメラルドグリーンの阿寺渓谷

阿寺森林事務所は、長野県の南西部に位置する木曽郡大桑村に所在し、美しいエメラルドグリーンの清流で知られる景勝地・阿寺渓谷を主とする阿寺国有林及び木曽谷最古のヒノキ人工林が現存する天王洞国有林の約五、四〇〇ヘクタールを管轄しています。

阿寺渓谷は、急峻でV字谷を形成する地形に「阿寺ブルー」と称される阿寺川が流れ、その昔、日本初の森林鉄道と言える阿寺軽便鉄道が活躍していました。（この鉄道はそこで働く人々の生活物資の運搬が主な目的だったようです。）

今はなき森林鉄道の跡が残る渓谷は、大小いくつもの滝や淵があり、四季折々の美しい景観が人々を魅了しています。

また、令和三年四月一日から大桑村の「阿寺渓谷における自然環境の保全等に関する条例」が施行されており、阿寺渓谷の自然環境を守り、美しい渓谷を後世に引き継いでいくため、関係機関と連携し、来訪者の方々のマナー向上に取り組んでいます。

森林鉄道の跡

管内の国有林は、木曽五木を主体とした天然林や高齢級のヒノキ人工林が多くあり、当事務所では、丸太を伐り出す製品生産事業、苗木を植林し育成する造林事業、林道を維持・修繕する土木事業等の現場監督業務、地元小中学校の生徒と一緒に体験・学習する森林教室の実施、森林の調査や境界巡検・巡視など、様々な仕事を行っています。

■未来の担い手へのメッセージ

森林官は、一国一城の主です。自分の管轄する国有林を守り育てていきます。

管轄する国有林を森林官として向き合っていくことは難しいですが、先人たちの想い・考え方と向き合い、永い年月をかけて成長してきた森林とともに、次世代の担い手へバトンを渡す役目があります。未来の森林の姿を一緒に探求してみませんか。

請負事業体へ説明する筆者

シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、様々な課題に挑戦されている方の取組を紹介します。

「山岳と共生する人の営みと建築」

京都府立大学大学院
生命環境科学研究科
准教授　奥矢 恵

■自己紹介

住居・建築設計、展示デザインに長らく従事していましたが、研究を志すようになり、現在は大学で住居・建築をはじめとする生活環境のデザインを教えつつ、研究に勤しんでいます。

■活動内容

私の研究の原点は登山という趣味にあります。山小屋という建築物には、厳しい山岳環境下で登山者の生命を守るための小屋主の経験や智恵が織り込まれていることに気付き、これらを明らかにして記録したいと考えるようになりました。現在、こうした山小屋の原初的な姿や変容の過程、具体的な建築像、また山岳環境への適応策について研究しています。

しかし、かつて「山小屋」とは、伐木や運材、炭焼き、狩猟などの山稼業とこれに伴う生活のための小屋を指す言葉でした。例えば、中部森林管理局蔵の『木曽式伐木運材図会』にも描かれる杣の小屋は、伐木や造材後の樹皮や枝葉を余すことなく使用して造られた、数ヶ月での解体を前提とする簡易なものでした。こうした山稼業のための小屋は登拝者や登山者に利用されるようになっていくのですが、木曽の御嶽山では現在も、杣小屋と同じ間取りを持つ複数の山小屋が営業を続けています。

御嶽山の山小屋（黒沢口七合目 行場山荘）

そのような訳で、かつて伐木や運材を営んだ村々の民家にも興味を持つようになり、山間の林業集落で板材を多用した民家の研究も行っています。これらの民家もやはり簡素な造りで、木材の加工に長けた人々の住まいだからこその特徴がみられます。周辺の森林と一体化した板造りの民家がつくり出す集落景観は、現在の雑多な都市にはない美しさを放っています。

雨量の多い林業集落にみられる
板材を多用する民家

■メッセージ

林業集落に限ったことではありませんが、山岳や森林などの自然環境と共に生きてきた人々の暮らし、その器となった建築物は失われつつあります。調査・研究を通じてその魅力を学生に伝え、共に詳細を記録し、民家や集落の再生・活用の提案につなげられるよう努めたいと考え、微力ながら実践しています。

学生との民家調査の一コマ

○連絡先
〒六〇六－八五二二
京都市左京区下鴨半木町一－五
https://okuya-lab.net

シリーズ 秘蔵写真

今は昔の林業

第22回

中部森林管理局技術普及課
井上（いのうえ） 日呂登（ひろと）

今は昔、山村に暮らす人々とその生業としての林業を当局秘蔵の写真とともにご紹介します。

「山火事防止」

どれだけ成長した森林であっても燃えてしまえば失われてしまいますので、山火事は恐ろしいものです。

とは言え、広大な面積の森林に対して山火事防止のために人間ができる対策は限られています。まず何よりも火を出さないことが第一になりますので、煙草や焚き火の不始末への注意喚起は昔から繰り返し行われてきました。

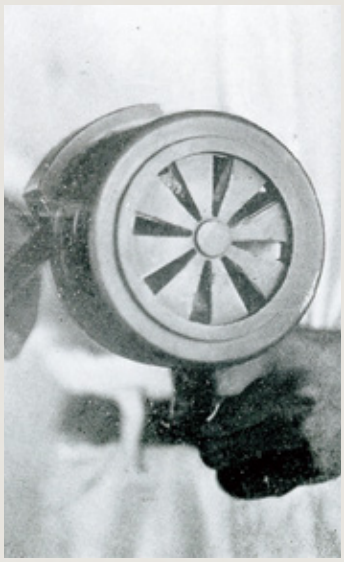
大正時代末頃、帝室林野局の注意看板

山火事が発生した際の延焼を防ぐために、ある程度の幅の森林を切り開く「防火線」が設けられることもありましたが、森林面積が減ってしまうこともあり、それ程頻繁に作られるものではありませんでした。

万が一、山火事になってしまった時のためには、延焼を防ぐために木を伐る人出を集めたり、危険な場所からの避難を促すサイレン・警鐘・通信手段が準備されていました。

昭和30年頃、上田営林署（現在の東信森林管理署）管内の山で切られた防火線

戦後、小型の消火ポンプや背負式の「消火水のう」も登場しますが、これらは初期消火や残火処理に主に使われるものでした。



昭和初期の帝室林野局の資料より、
（左）有線の携帯用電話機と、（右）携帯用手動サイレン

ここで紹介している写真は、当局サイト「モノクロ森林紀行」で紹介しております。

これは、カラー写真のない時代へ時を超えて！むか～しの写真を紹介するサイトです。

当サイトへは、コードを読み込んでください。

モノクロ

シリーズ 中部の保護林（第22回）

南アルプスの植生の垂直分布の典型

南アルプス（聖岳等）生物群集保護林

設定目的

本保護林は荒川岳（前岳）（三、〇六八メートル）周辺から聖岳（三、〇一二メートル）、易老岳（二、三五八メートル）に連なる稜線の西側斜面に位置しています。

標高が一、一二〇メートル～三、一二〇メートルに及び、山地帯から亜高山帯、高山帯に至るまでの植生の垂直分布がみられます。

これらは、南アルプス中央部～南部地域の典型的な植生の分布として貴重であるため、保護林として植物群落を一体的に保護しています。

地況・林況

コメツガやシラビソ、ダケカンバ等から構成される亜高山帯の植生を主体として、一部にブナ、ミズナラ等から構成される山地帯や、高山植物、ハイマツ等の高山帯の植生を含む植物群落となっています。

稜線付近は、風が強いため、樹木が生育しにくい環境でみられる風衝草原や、雪の吹きだまり周辺にみられる雪田植生等が広がっています。

タカネマツムシソウ

所在地
長野県下伊那郡大鹿村
飯田市上村・南信濃

※自然保護のため、詳細な位置情報は掲載しておりません。

国有林野には、世界自然遺産を始めとする原生的な森林生態系を有する森林や、希少な野生生物の生育・生息の場となっている森林が多く残されています。

国有林野事業では、1915年（大正４年）以降、こうした貴重な森林を「保護林」として設定し、森林や野生生物等の状況変化に関する定期的なモニタリング調査を実施して、森林の厳格な保護・管理を行っています。

※詳細は、コードを読み込んでください。

お問い合わせ先：計画保全部計画課　ダイヤルイン：026-236-2612

国有林モニターのご紹介

平野 弘蔵（ひらの こうぞう）
（長野県）

昭和六十一年頃には、鍋倉山ブナ伐採計画が持ち上がり、「ブナ一本で一反歩の田んぼを潤す」とその重要性を知ったのもこの時でした。

地元の反対もあり計画が無くなり、今は、信越トレイルの一部として多くの方が訪れています。

国有林をはじめとする森林の持つ役割を維持するために、どんな森林事業がなされているのかをモニターを通して考えてみたいと応募しました。

◇国有林に期待すること

「森林は水の源　水は農の源　農は命の源」という言葉に出会いました。自然（生態）の一員である私たちの生活にとっても重要な役割をもつ森林ですが、その整備や管理、活用については課題が大きいと感じています。国有林だけでなく個の所有する森林の整備が進み、木材として、生態系としてより有効に活用されることを期待します。

（写真：クロスカントリースキーを履いて凍み渡りをしているところ）

◇自己PR：（趣味や特技など）

定年退職後、農作業の傍ら学校支援ボランティアとして、近くの学校の米作りの応援や体育のクロスカントリースキーの授業等に行っています。子どもたちとのかかわりを通して元気をもらっています。

◇国有林モニターに応募いただいた理由

私の住む地域の近くにはブナの巨木で有名な鍋倉山の国有林があります。最大の巨木である樹齢三〇〇年ともいわれる「森太郎」が昨冬の大雪で倒れてしまいました。何度も訪れたことがあるだけに大変残念なことです。

中部の森林 林業従事者写真コンテスト審査

二月七日（火）、中部森林管理局において、林業従事者写真コンテストの審査が行われました。

審査には、一般社団法人 全国林業改良普及協会 編集制作部の岩渕光則部長と、先月、２０２３ミス日本みどりの大使に選ばれた上村（かみむら）さや香さんにも加わっていただき、関係者約七十名による事前投票の結果、投票数の多かった作品を中心に審査していただきました。

審査結果は、来月号の広報「中部の森林」及び中部森林管理局のホームページにて発表いたします。

審査の様子

編集長だより

（中部の森林へのご意見・ご要望等の投稿は、
migoro@maff.go.jpまで電子メールでお送りください。）

中部森林管理局のホームページに「山で働く人の現在の写真があまり無いから、コンテストで募集して、ホームページで紹介したらどうかな？」とのお話をいただいたことから始まった林業従事者写真コンテスト！

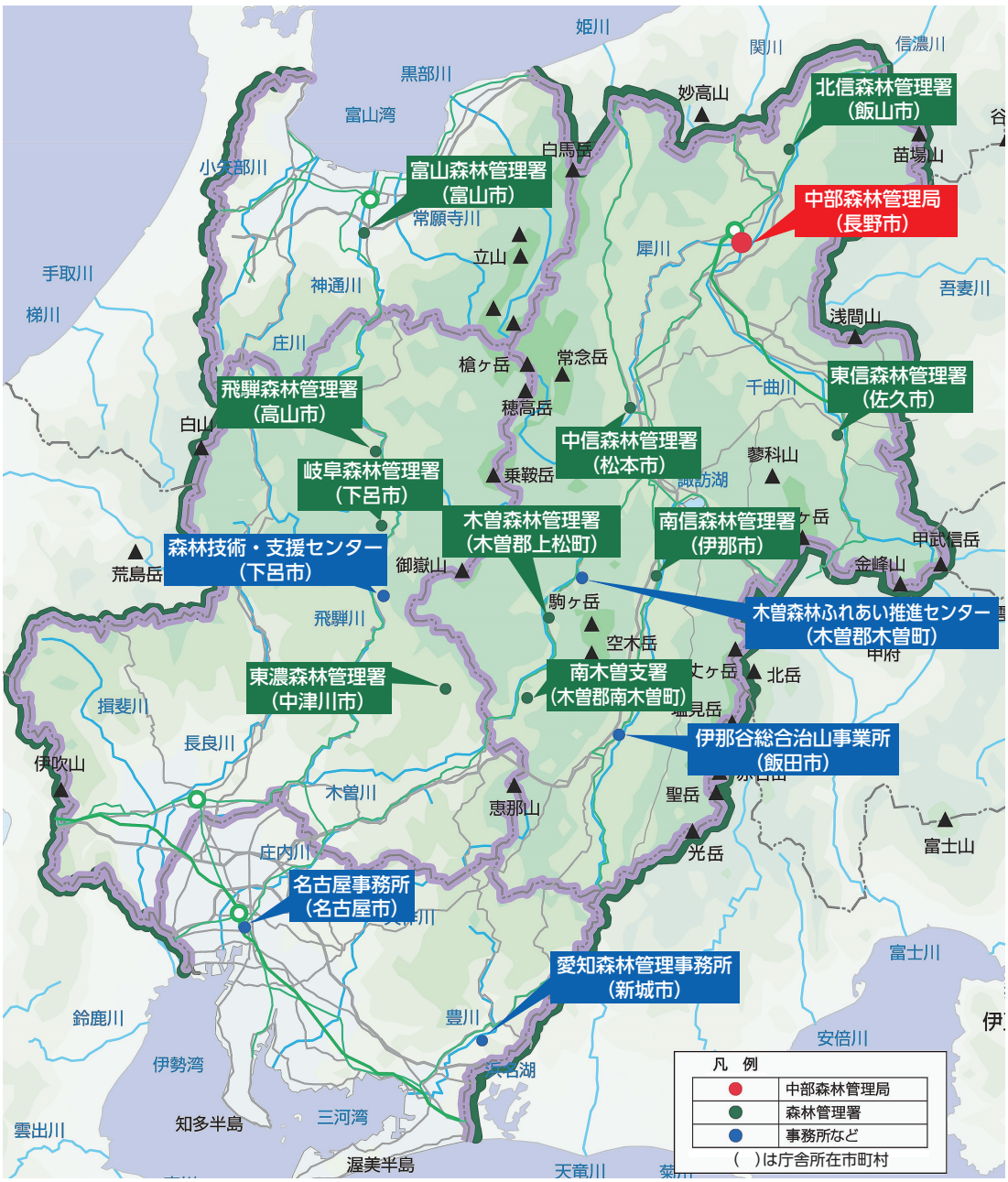
想いが込められた数々の写真の審査が無事に終了し、安堵の気持ちに包まれるとともに、駆け抜けてきた日々を振り返り、さみしいような気もしています。

東京から新幹線で審査に駆けつけていただいた岩渕様とミス日本みどりの大使に心より感謝申し上げます。

2023年から、みどりの女神は、みどりの大使に名称変更されたため、油断すると「女神」と声をかけてしまいますが、みどりの大使としての活動が始まったばかりの上村さや香さんは、今回が初の遠出出演ということで、「みどりの大使になりたかったので、なれて本当に嬉しい」と伝えてくれた時の笑顔、美しくて力強い歌声、「１年後にみどりの大使が私でよかったと言ってもらえるようにがんばりたい」と、みどりや木の魅力発信に全力で取り組もうとしている姿からパワーを受け取りました♪

上村さや香さんの活動やオリジナル曲は、Twitterなどで配信されています！

28.「凍てつくハイマツ」（中信署管内）



中部森林管理局のホームページ等へのアクセスは、以下を読み込んでください。

中部森林管理局
ホームページ

広報
「中部の森林」

用語の解説

本誌文中に掲載している主な専門用語・業界用語を解説。

名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-20	TEL 050-3160-6660	c_nagoya@maff.go.jp
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	TEL 050-3160-6080	c_toyama@maff.go.jp
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	TEL 050-3160-6045	c_hokushin@maff.go.jp
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	TEL 050-3160-6050	c_chushin@maff.go.jp
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市臼田1822	TEL 050-3160-6055	c_tohshin@maff.go.jp
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	TEL 050-3160-6060	c_nanshin@maff.go.jp
木曽森林管理署	〒399-5604	長野県木曽郡上松町正島町1-4-1	TEL 050-3160-6065	c_kiso@maff.go.jp
南木曽支署	〒399-5301	長野県木曽郡南木曽町読書3650-2	TEL 050-3160-6070	c_nagiso@maff.go.jp
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	TEL 050-3160-6085	c_hida@maff.go.jp
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	TEL 050-3160-6090	c_gifu@maff.go.jp
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	TEL 050-3160-5675	c_tohno@maff.go.jp
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	TEL 0536-22-1101	c_aichi@maff.go.jp
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	TEL 050-3160-6095	c_gijutsus@maff.go.jp
木曽森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曽郡木曽町福島5473-8	TEL 0264-22-2122	kiso-fureai@maff.go.jp
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	TEL 050-3160-6075	

発行：林野庁 中部森林管理局
編集：総務課 広報
〒 380-8575 長野県長野市栗田 715-5
電話：026-236-2531
Mail：migoro@maff.go.jp
http://rinya.maff.go.jp/chubu/

メールマガジンに登録いただくと、広報「中部の森林」を発行日と同時にデジタル版を毎月配信します。
（毎月 10 日発行※編集の都合で、発行日が遅れることもあります）
登録サイト https://mailmag.maff.go.jp/m/entry

本誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。